

平成23年度 農薬の大気経路による飛散リスク評価検討会（第1回）

議事概要

1 開催日時及び開催場所

日 時： 平成23年6月7日（火）14:00～16:00

場 所： 糖業会館（2階ホール）

2 出席委員（五十音順、敬称略）

有田芳子、上路雅子、川幡寛、白石寛明、富田恭範、宮原佳彦、森田昌敏

3 会議の概要

(1) 検討会の設置及び座長の選出について

本検討会の設置の趣旨等について事務局より説明がなされ、開催要領（案）が原案通り了承された。また、開催要領に基づき座長の選出が行われ、森田昌敏委員が選出された。

(2) 農薬吸入毒性評価部会の検討状況について（報告）

資料3及び4に基づき、環境省より平成22年度農薬吸入毒性評価部会の検討状況について報告があった。

(3) 農薬飛散実態調査について

ア 平成22年度調査結果

農薬の物理化学的性状及び粒径分布の測定結果について、それぞれ資料5、資料6に基づき試験実施機関より説明がなされた。このうち、物理化学的性状の測定結果の信頼性について質問が出され、分析法の妥当性を検討した結果、測定は適切に行われたと考えられることが確認された。

イ 農薬飛散シミュレーション実施計画（案）

資料7に基づき、専門家より、シミュレーション実施に当たって考慮すべき、無人ヘリの主回転翼が起こす吹き下ろし下流（ダウンウォッシュ）の評価方法について説明がなされ、質疑応答の後、承認された。

ウ 農薬飛散モニタリング調査計画（案）

資料8に基づき、環境省より平成23年度農薬飛散モニタリング調査実施計画（案）について説明がなされ、質疑応答の後、承認された。

主な質疑応答の内容は以下のとおり。

- 調査ラインの方位について、調査前に決めてしまうのではなく、現地の状況に応じて設定した方が良いのではないかとの指摘があり、環境省より、調査地域が確定し次第、適切なサンプリングが可能となるよう柔軟に対応したい旨の回答があ

った。

- 近隣ほ場からの調査対象農薬の飛散・流入の懸念があるのではないかと指摘があり、環境省より、調査地域の選定に当たっては、周辺の生産者との調整が可能かどうかとも考慮したいとの回答があった。
- 多くの地点で検出下限以下になることが想定され、そのような地点については分析の必要はないのではないかと指摘があり、環境省より、検出下限値以下のデータが連続する等、検出されないことが明らかな場合は分析をとりやめるなど、現場で臨機応変に判断することとしたい旨の回答があった。

(4) その他

事務局より、本年度内にもう一度検討会を開催予定である旨連絡があった。

(以上)